

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語		算数	
	5年時	6年時	5年時	6年時
H30 入学 現 6年生	県	全国	県	全国
	(12月)	(4月)	(12月)	(4月)
	66.4	72.0	64.7	60.0
	(0.99)	(1.06)	(1.05)	(0.98)
R5 正答率の全国比	1.07		0.96	

◎ 5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎ 「令和5年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【国語】

- 平均正答率は、すべての領域等で佐賀県平均や全国平均を上回っている。
- 記述式問題は、県平均や全国平均より正答率が高い。
しかしながら、無回答率も県平均や全国平均より高い。

【算数】

- 全体の平均正答率は、県と比較して1%、全国と比較して2.5%下回っている。
- 記述式問題は、4問中2問で無回答率が0%であった。
- 領域別にみると、「数と計算」「図形」「データの活用」で、県および全国平均を下回っている。
その要因として、図形の見方が限定的で頭の中でイメージができていない
図形の回転・変形ができない
図形の公式が身につけていない児童も多い
補助線が必要な図形になると手がとまる
分配法則が苦手
資料から条件に合う情報を読み取ることができない
などが考えられる。

【意識調査】

- 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる」と回答した児童の割合は、85%をこえ、県や全国を上回っている。
- 「学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日の学習時間が1時間以上」と回答した児童の割合は、県や全国を大きく上回っている。
- 「新聞を毎日読んでいる」児童は0人で、9割弱の児童が「ほとんどまたは全く読まない」と回答している。
- 国語の解答を文章で書く問題については8割以上、算数の言葉や数、式を使って、わけや求め方を書く問題については7割程度の児童が「すべての書く問題で最後まで回答を書こうと努力した」と回答している。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・ 「授業づくりステップ123」のステップ3を目指した授業づくりをし、定期的にチェックシートで振り返りをするを継続し、授業改善について意識の継続を図る。
- ・ 週末の宿題などで文章問題に取り組みせたり、授業内容と関連した読書活動の充実を図ったりすることを継続することで、「読むこと」への興味・関心が向上するようにしていく。
- ・ 日頃の授業の中で、キーワードや文字数などの条件を与えて自分の考えを書く機会を意識して設けることで、条件に合った文章を書くことができるようにしていく。
- ・ 問われていることやキーワード、大事なところに着目できるように、問題に書き込ませる指導を行い、問いに正しく答える力がつくようにしていく。
- ・ 国語の学習と関連した読書活動にさらに力を入れていく。
- ・ 算数の問題については、間違いのやり直しの時間を十分確保し、基礎的な内容を確認をするとともに、内容の理解を定着させていく。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

【学びの土台づくり】

児童の発達段階に合わせた「西っこカード」を全学年で活用し、基本的な生活習慣づくりに取り組んでいる。その中の「生活習慣」に関する項目は、児童一人一人の実態に合わせて変更し、生活習慣の見直しを図っていく。また、学習において大切な「読むこと・書くこと」の力を付けるために「音読」や「日記」の宿題に毎日取り組ませる。「西っこカード」は、毎日保護者に点検してもらうようにし、家庭との連携を図る。

家庭学習で自主学習を奨励し、児童の学ぶ意欲の向上や既習内容の習得を目指す。

【教員相互の学び合いの充実】

TT授業や少人数授業を行うことで、教員同士が指導法や教材研究について学び合ったり、授業公開を参観して学んだことを共有したりすることで、指導力向上を図っていく。

タブレットの活用法も含め、校内研修の時間をはじめ、学年あるいは学年グループで情報交換をしながら、効果的な活用方法を追求していく。